

年頭のごあいさつ

New Year's greetings 2025

穴水町長

吉村
光輝



新しい年を迎えるにあたり、皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年のはじめは、みなさまにとりまして、決して忘れることのできない1年の始まりでありました。1月1日16時10分頃に発生した令和6年能登半島地震は、本町で最大震度6強、隣接の志賀町、輪島市では県内観測史上最大の震度7を観測するなど、17年前の能登半島地震をはるかに超える未曾有の大震災となりました。あらためて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方に対しまして心からお見舞い申し上げます。

また、発災直後より全国からの自治体を始め、自衛隊・消防・警察のみなさま、企業、ボランティア団体のみなさま方には多大なるご尽力とお力添えを賜りましたことに、重ねて厚く感謝申し上げます。

この1年は本当に長い1年でありました。ようやくではありますが、7月には復興への明るい足がかりとして「長谷部まつり」の代替イベントである「復興団結～希望の灯り」を開催し、多くの町民のみなさまに参加いただき、商店街への新しい人の流れをつくることができました。また10月には、町防災広場に仮設商店街「あなみずスマイルマルシェ」をオープンさせ、被災した9つの店舗が入居し、なりわいの再生に向けスタートを切りました。町商店街の新しいシンボルとして多くの方々が集い、長く愛されることを期待しております。

そして12月には、震災からの復旧・復興の実現に向けての道しるべとなる「穴水町復興計画」を策定いたしました。震災復興のキャッチコピー「みんなで創ろう 未来のあなみず」のもと、「住民参加でつくるまち・暮らすことにより誇りが持てるまち」を本町が目指す将来像といたしました。サステナブル【今の良さを守り伸ばす】、イノベーション【挑戦し変化する】、そしてゲートウェイ【奥能登の軸となる】の3つの道筋・指針を掲げ、「災害に強いまちづくりプロジェクト」、「地域コミュニティとなりわいの再生プロジェクト」、「魅力ある子育てと教育の環境づくりプロジェクト」および「奥能登の玄関口再生プロジェクト」の4つをシンボルプロジェクトとし、その実現に向け、町民お一人おひとりが復興の主演となり復興計画を推進し、本町および本町議会はみなさま方を支えてまいります。

これから、令和7年度の新年度予算編成となります。道路や公共施設の復旧事業や、公費解体の着実な遂行が前提となりますが、復興予算の柱は「災害公営住宅の建設」、「新穴水小学校の建設」に加え、「のと鉄道穴水駅を含めた中心商店街の活性化事業」の立案と推進であると考えております。未来ある子どもたちに「これからも住んでみたい、住んで良かった」と思えるような魅力あるまちづくりを目指し、そして町民誰一人取り残さない復旧・復興に向けての取組みを更に加速させてまいります。

復興に向けてこれから長い時間と労力が必要となりますが、一日も早い町全体の創造的復興に向け、私が先頭に立って、総力を挙げて取り組んでいく決意であります。町民の皆様方には、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びになりますが、新年の門出にあたり、みなさま方のご健勝とご多幸を、心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。